

令和5年度第4回士別市社会教育委員の会議議案

□と き 令和6年3月21日（木）15時10分

□ところ 士別市生涯学習情報センター 地階 視聴覚室

1 開 会

2 挨拶

3 報告事項

(1) 生涯学習情報センターの運営状況について 資料1

(2) 人材育成・文化振興事業補助金について

「みよし市少年サッカー交流事業」

「令和5年度友好都市少年野球交流（派遣）事業」

4 協議事項

(1) サークルメイトのホームページでの情報提供について 資料2

5 研究活動

(1) 委員交流（テーマ「住民参画を促す方策について」） 資料3

6 閉 会

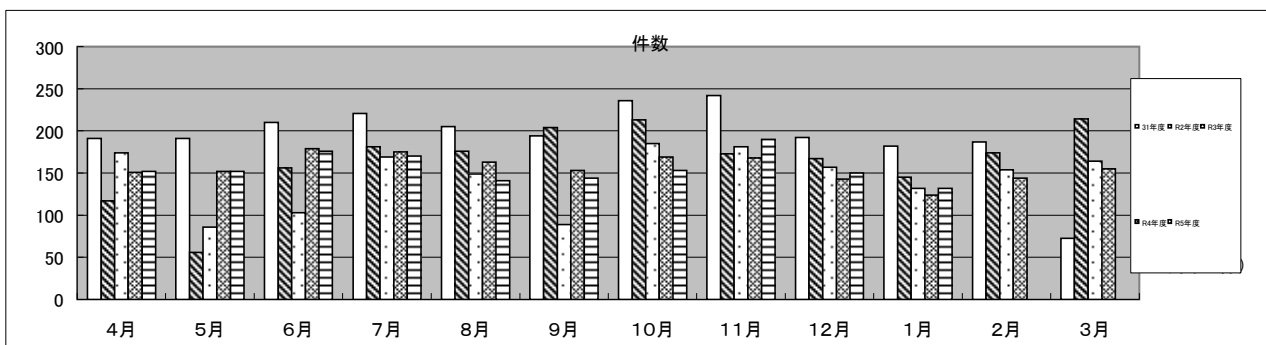
士別市生涯学習情報センター利用状況(年度毎比較)

資料1

利用件数

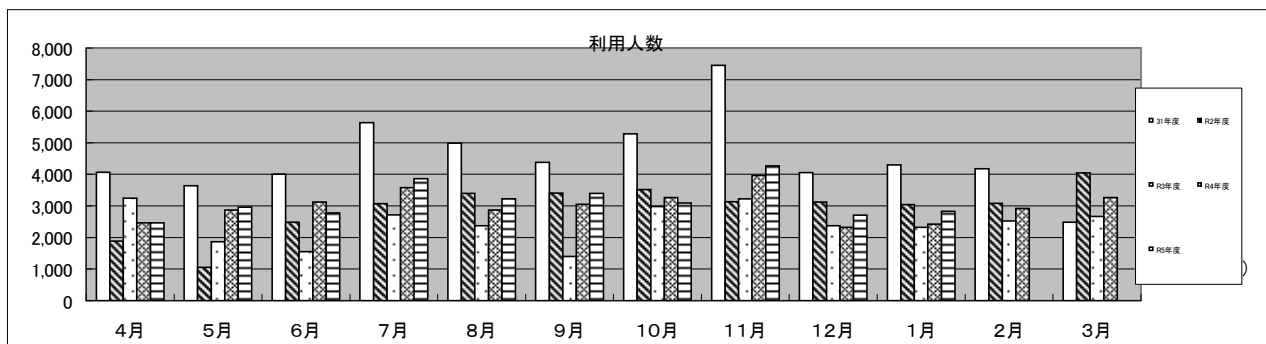
(単位:件)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年合計
31年度	191	191	210	221	205	194	236	242	192	182	187	73	2,324
R2年度	117	56	156	181	176	204	213	173	167	145	174	214	1,976
R3年度	174	86	103	169	149	89	185	181	157	132	154	164	1,743
R4年度	151	152	179	175	163	153	169	168	143	124	144	155	1,876
R5年度	152	152	176	170	141	144	153	190	150	132	0	0	1,560



利用人数

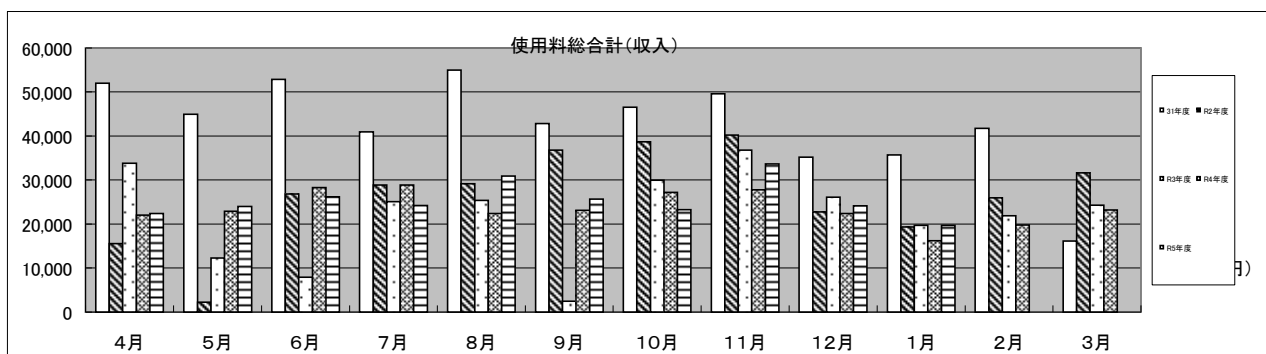
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年合計
31年度	4,058	3,636	3,995	5,630	4,991	4,374	5,279	7,454	4,051	4,293	4,173	2,481	54,415
R2年度	1,885	1,055	2,478	3,072	3,390	3,398	3,514	3,135	3,122	3,040	3,080	4,040	35,209
R3年度	3,237	1,869	1,540	2,712	2,361	1,392	2,984	3,219	2,366	2,319	2,525	2,658	29,182
R4年度	2,463	2,865	3,127	3,581	2,861	3,056	3,268	3,962	2,319	2,420	2,915	3,270	36,107
R5年度	2,467	2,951	2,774	3,861	3,220	3,388	3,091	4,266	2,701	2,825	0	0	31,544



使用料総合計(収入)

(単位:円)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年合計
31年度	51,975	44,915	52,845	40,895	54,965	42,825	46,520	49,610	35,210	35,695	41,705	16,135	513,295
R2年度	15,550	2,265	26,830	28,875	29,145	36,800	38,645	40,190	22,735	19,330	25,915	31,630	317,910
R3年度	33,775	12,225	7,910	25,045	25,320	2,450	29,945	36,775	26,135	19,655	21,915	24,295	265,445
R4年度	22,040	22,930	28,295	28,870	22,420	23,085	27,150	27,770	22,365	16,215	19,800	23,185	284,125
R5年度	22,340	23,985	26,180	24,220	30,900	25,645	23,265	33,680	24,150	19,635	0	0	254,000



※平成22年度より「利用件数」及び「利用人数」には図書館入館者が含まれている。

サークルメイトの変遷と市ホームページでの情報提供の運用について

1. サークルメイト発行の流れ

平成2年度 (1990年度)	サークルメイトを発刊（文化423団体・スポーツ149団体） 掲載内容は団体名、代表者・事務局氏名連絡先
平成15年度 (2003年度)	掲載内容は従来に加え、活動概要を掲載（文化265団体・スポーツ57団体）
平成18年度 (2006年度)	市町村合併により朝日地区団体を掲載（文化265団体・スポーツ75団体）
平成30年度 (2018年度)	次年度（平成31年度）より隔年発行とする（文化178団体・スポーツ65団体）
令和2年度 (2020年度)	市HPにてweb版を掲載。スマートフォンアプリ掲載（団体名と活動概要のみ掲載） （文化158団体・スポーツ59団体）

2. 経緯

○令和6年度予算要求時、例年どおり500部冊子を発行する予定で予算要求を行った。

○理事者・財政課との予算編成打合せに冊子発行を見直し、ホームページ上での公開に切り替える協議を行った。

- ・冊子が隔年発行となり、団体代表者などの情報が更新された場合、タイムリーな情報を発信できないこと

- ・市として取組んでいるゼロカーボンの考え方からも印刷・製本を減らすこと

- ・市民からサークルメイトに関する問い合わせ状況としてはホームページを見て、団体に連絡を取りたいという問合せが1,2件のみだったこと

このことについて、社会教育委員の会議 議長、副議長と協議を行うこととした。

○議長、副議長に上記の経緯を説明し、意見をもらう。

「状況は理解した。一律ホームページを見てくださいますのは、市民の社会教育活動にも影響を与えるので、各施設の窓口などには簡易版の冊子を作成し、求めに応じて自由に閲覧できることが望ましい」

⇒サークルメイトの冊子発行を見直し、ホームページ上で団体情報を周知することとした。

3. 協議事項「運用にあたっての課題について」

協議① 掲載内容…現行の冊子版、web版の掲載例は次のとおりである。

【現行掲載内容】

(冊子版)

絵画 サークル 士別	代表者	士別 太郎	事務局	道北 一郎	連絡先	事務局自宅	23-1234
	概 要	【内容】 絵画サークル・作品展 【例会】 毎週土曜日・市民文化センター					

(web版)

士別 サッカー クラブ	概 要	【内容】 サッカーの技術向上、各種大会開催、少年団の育成 【例会】 毎月第2月曜日・第4月曜日 【団体HP】 http://www.1234.shibetsu.jp					
-------------------	-----	--	--	--	--	--	--

(参考) 他市町村の web でのサークル情報掲載内容

北海道：団体名・代表者名・電話番号・FAX番号・メールアドレス・ホームページURL・活動概要

札幌市：団体名・活動概要

余市町：団体名・活動概要

旭川市：団体名・会員数・活動概要

苫小牧市：団体名・会員数・活動概要

【今後のインターネット掲載内容（案）】

士別 サッカー クラブ	概 要	【内容】 サッカーの技術向上、各種大会開催、少年団の育成 【例会】 毎月第2月曜日・第4月曜日 【団体HP】 http://www.1234.shibetsu.jp 【メール】 ssc.1234@shibetsu.com					
-------------------	-----	--	--	--	--	--	--

協議② 運用方法

(現行)

団体に連絡したい場合は、教育委員会に連絡。

教育委員会から団体連絡先に問合せがあったことを伝え、電話番号を伝えて良いか確認。

了承を取れば、問合せ者に連絡先、代表者名を伝える。

協議③ 周知方法について

・市民の生涯学習・社会教育活動の推進支援のために、市広報誌などで積極的周知を行う。

研究活動「委員交流」資料

研究テーマ「市民参画を促進する社会教育行政の取組」

1. これまでの委員交流のまとめ

第1回 委員交流「社会教育活動への関わりについて」

企画（依頼する側）、参画（依頼される側）、参加（参加する側）の視点から意見交換を行なった。

- ・学習活動を通じた「市民の相互理解・信頼関係を深める」ことは、つながりづくりに寄与している
- ・「参画する」「企画する」ことは、そのまま主体的な学びにつながっている

⇒このまとめは、社会教育の意義を表す言葉である。ここから、

「相互理解」「信頼関係」「つながりづくり」「主体的な学び」

をキーワードとして抜き出した。

第2回 委員交流「次年度方針と参加者アンケートから」

「相互理解」「信頼関係」「つながりづくり」「主体的な学び」を得るための方向性や考えについて意見交換を行なった。

相互理解…特化した活動を行ううえでの理解や妥協が得られる。

信頼関係…関わる機会を多く持つことで築かれる。

つながりづくり…主体的な活動がきっかけとなり、そこで新しい出会いや関係性が生まれる。

集まり、話すことでつながりを実感する。受け身ではつukれない。

主体的な学び…参加することで、再度参加したいか判断する材料となる。魅力を感じる必要がある。活動の中で課題を認識し更なる学びの必要性を感じる。

など、社会教育活動全体を通して、様々な気づきや学びがあることを確認できた。

2. 令和5年度研究活動のまとめ

- ・委員がこれまでの活動で得てきた経験から、上記のようなことを学んだことが伺える。
- ・これらの学びを実感することで、市民の参画意欲が促進されると考える。

⇒「主体的な学び」「相互理解」「信頼関係」「つながりづくり これらを意識しながら活動することが大切である。

3. 令和6年度の研究活動の展望

- ・委員や事務局がキーワードや学びの成果を意識しながら、社会教育事業や社会教育活動に参加・参画・企画したうえでの気づきや考えを交流・協議する。

4. 今回のテーマ「住民参画を促す方策について」

- ・令和5年度の社会教育事業の様子を紹介。
- ・どのような仕掛けや場面をつくれば、学びの実感が得られるのかを交流。